

対アゼルバイジャン共和国 国別援助方針

2014年10月

1. 援助の意義

アゼルバイジャンは、豊富なエネルギー資源を有し、中央アジア諸国・カスピ海地域と欧州をつなぐエネルギー・物流の回廊となっており、また、周辺をロシア及びイランといった地域大国に囲まれ、地政学的に重要な位置を占めている。したがってアゼルバイジャンの安定的な発展は、コーカサス地域の安定にとって非常に重要である。

アゼルバイジャンは、独立後、積極的な外資の導入による石油・天然ガス開発及びこれら資源の輸出により、飛躍的な経済発展を遂げてきた。しかし、公共投資に支えられた建設業などが急成長を見せる一方、近年の石油の減産に伴い、これまで経済成長を牽引してきた石油セクターの成長に陰りが見られる。また、人材不足により有効かつ効率的に民間投資や政府予算の運用がなされなかったために、これまでの経済発展により得られた富の配分が適切になされず、貧富の差や都市部と地方との格差拡大が生じ深刻な問題となっている。

将来の石油の枯渇を見据えた中長期的な経済の安定的発展のためには、更なる産業構造の多角化と、経済発展の基盤となる、旧ソ連時代から残る老朽化したインフラの更新が急務となっている。また深刻化する格差是正のため、住民の生活基盤と質の向上を目指した社会サービスを幅広く提供するための基盤整備や、民間や行政分野の人材育成も重要な課題である。

このような状況を踏まえ、我が国がODAを通じアゼルバイジャンを支援することは、同国が抱える課題の解決を後押しするのみならず、我が国との友好関係の更なる発展にもつながり、さらにはコーカサス地域全体の安定に寄与するという観点から意義がある。

2. 援助の基本方針（大目標）：持続的な経済成長の達成と格差の是正に向けた支援の実施

持続的な経済成長の達成と格差の是正のために、アゼルバイジャン政府が目指す、経済の多角化と、同政府が注力している農業、観光、運輸分野等の振興策や、電力、道路等のインフラ整備を後押しする。

3. 重点分野（中目標）

（1）経済インフラ整備

旧ソ連時代に整備されたインフラ設備の老朽化が経済成長の阻害要因となっている。特に電力や物流網の改善は円滑な企業活動の基盤であり、農業など非石油セクターの産業振興の観点からも重要であることに鑑み、主としてエネル

ギー分野及び運輸分野のインフラ整備を支援する。

(2) 社会サービスの改善

貧富の差や都市と地方の格差が拡大しており、地域住民の生活基盤となる上下水道等の社会インフラ整備が重要な課題となっている。また、保健・医療、教育や環境対策といった基本的な社会サービスへのニーズが満たされていないため、公共サービスの質及びアクセス向上が急務となっている。こうした住民の生活基盤及び質の向上に向けて、社会サービスを提供するための基盤整備に資する支援を行う。さらに、持続可能な経済成長と格差是正に向けて、適切な社会サービスを提供する行政や産業振興に寄与する民間セクターの人材育成支援にも注力する。

4. 留意事項

アゼルバイジャンに対しては、他の先進国及び国際機関も支援を行っていることから、効率的な支援の実施のため、他ドナーとの情報共有を積極的に行い、連携の可能性に留意する。

(了)

別紙： 事業展開計画